

# NPO法人(特定非営利活動法人) 国際フリースクール I CAN

Programs that build Confidence and Self Esteem



## 組織概要

名称: 特定非営利活動法人国際フリースクールI CAN

所在地: 〒943-0823新潟県上越市高土町1丁目8番10号

連絡先: 025-524-0173(TEL・FAX兼)

設立: 2005年10月12日(前身組織“I CANスクール”1995年4月設立)

代表者: 理事長 楡井辰雄

役員: 理事10名、監事1名、職員数2名

活動ボランティア 定期10名 不定期30名

会員数: 56(2007年3月現在)

内訳: 正会員/個人31、賛助会員/個人16・企業8・団体1



## 活動理念

NPO法人国際フリースクールI CANは、子どもとその家族に対して、自分の価値の自覚と他者を尊重する力を養うための教育活動を行い、健全な心身の育成に寄与すること、また欧米で心の教育として取り組まれている「セルフ・エスティーム教育」を国内へ普及・推進することで社会に貢献する。

## 活動目的

活動理念に基づき、学習・交流の場の運営、情報発信、調査研究、普及員の育成、関係機関や団体相互の交流を行うことを活動の目的とする。

## 特定非営利活動の内容

- (1) 子どもの健全育成を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) 保険、医療または福祉の増進を図る活動
- (4) 国際協力の活動
- (5) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

# 設立趣旨

## Mission

NPO法人国際フリースクールI CANとは、学習塾ではありません。フリースクールという舞台において様々な活動を通して、子どもたちの「生きる力」を引き出そうとする子ども・青少年の健全育成活動を行う団体です。

### 今、子どもたちは、そして大人たちは

不登校、いじめ、無気力な子どもの増加。未来の上越、未来の日本、そして未来の地球を創造するはずの子どもたちに、今、尋常ならざる異変が起きています。

そして残念ながらこれらの問題に対して、大人たちは適切な解決策を示すことができていません。第二次世界大戦後の荒廃の中から私たちの先代が作り上げ、私たちの世代へと発展、享受してきた平和と豊かさを次の世代に伝えることができるのでしょうか。子どもたちに表面的・物質的な豊かさや理想論的な平和主義だけを伝え、その豊かさや平和を支えている「心」や「生きる力」を伝えきれずに過ごしてきてしまったのではないのでしょうか。

### 「生きる力」とは

『私には価値がある』。私たちはこうした子どもたちの自覚が「生きる力」だと考えています。

子どもたちにとって、「自分が生きていることの価値」を自覚することは大人が思うほど簡単なことではありません。言葉で、理屈として理解させるのではなく、全身から湧き出るような活力として、行動として理解させたいのです。「生きる力」とは勉強ができる・スポーツができる・芸術の才能がある・五体満足であるということではありません。

たとえ、勉強・運動が苦手でも、自慢できる才能がなくても、そして身体が不自由であっても、『生きているこのままの自分に価値がある』ことを自覚することだと考えています。そして、自分の価値の自覚と同様に、「他人の価値を認める力」を身につけてこそ「生きる力」は完成すると考えています。

### 「I CANの目指すもの」

I CANの活動は不登校児童やいじめの問題に悩む児童を学校に通わせる様に指導するための活動ではありません。確かに、これまでの活動を通して不登校児童が学校復学や進学をするようになった実績はありますが、これはあくまでも結果の一部であって、本来の目的ではないのです。

I CANの目標である第一ステップは「価値ある自分への気づき」です。

これは、子どもたちがディスカッションやクラフト作り、様々なワクワクするような野外活動やボランティア活動を通して、どんなことにもまずはチャレンジしてみる、そして他人の役に立つことのできる「価値ある自分」を発見すること、「無限の可能性のある自分」に気づくステップです。

次に「価値ある自分」の自覚と「価値ある他人」を認めた子どもたちは、お互いに強調しながら自らの新しい可能性に挑戦します。ここに**創造的な行動**が生まれます。これが第二ステップです。

創造的な行動力に満ちた「未来の大人たち」は生きることの楽しさを実感し、また周りにもその楽しさを伝え、活気あふれる上越、平和で豊かな日本、そして世界を築いてくれることでしょう。

これが私たち国際フリースクールI CANの目指す最終目標です。

# 沿革

## History



1995年

Ⅰ CANスクール設立  
「株大島クリエート教育事業部」としての設立  
放課後のセルフ・エスティーム(自己重要感)  
クラブ開設、ホームスティ英会話コース開設

1996年

ホームスティプログラム開始  
(この年はアメリカ、以後毎年実施)

1999年

不登校生支援のための活動時間  
(午前コース)開始

2002年

Ⅰ CANスクールが(株)くびき野創造教育研究所  
に事務所移動

2003年

フリースペース事業(夜間学習サポート)開始  
週末を利用した親子体験活動実施

2004年

不登校支援プログラム運営時間拡大  
(10:00~15:00※毎週3日)  
セルフ・エスティーム(自己重要感)講座開講  
(毎週第3土曜日、計12回運営)  
中山間地域における自然と文化の体験活動  
開始(まちづくりへの参画)

2005年

特定非営利活動法人設立  
にいがた新しいまなびの場フォーラム開催  
(新潟県勤労者福祉厚生財団助成事業)

2006年

スタディチーム開始(復学メンバー6名)

2007年

先生のための不登校セミナー開始  
(シリーズ6回)





## 国際フリースクールI CANの成り立ちと歩み

### 出発点はアメリカ人の熱い思い

1995年4月、I CANは新潟県上越市の榊大島クリエート内の教育事業部としてスタートしました。スタートのきっかけとなったのは一人のアメリカ人青年でした。

1990年に初めて来日したチャールズ・ストラットン(英語指導助手)として新潟県中頸城郡大潟町(現在、上越市大潟区)の中学校で4年間勤務しました。

その経験の中で、日本の教育に不足しているのが「子どもたちの自己認識を高めてあげること」だと、彼は気づきました。

子どもたちがそこに生きること自体、奇跡に近い、何物にもかえ難い取り得なのだということ。

そのことを誰も教えてくれないがために、自らを傷つけ、責め、時として命を絶つ子どもたち…。この状況に日本の教育システムの矛盾を感じたのです。

その思いに共感したのが、当時上越市の中心で電気工事業を営む榊大島クリエートの大島誠社長だったのです。二人は夜更けまで語り合い、「自分が人間である喜び」、「自分がかけがえない存在であることの認識」を子どもたちに気づかせるまなびの場を作ろう!と意気投合したのです。そして、そのまなびの場を「自分が可能性を感じ、自信をもてる」という意味を込めて、『I CAN』と名付けました。

### 広がる活動 - 市民の共感と支援の輪 -

「自分を発見する」まなびの場は、メンバーが自分らしく生きられる安全な場所であると同時に、友達を作ったり、目標を立てたり、新しい能力を育てる場所でもあります。

こうした環境を作るために、I CANの活動に欠かせないのが子ども同士のディスカッションです。互いの考えを知り、互いが認め合い、過ごしやすい場を作っていきます。

スタート当初、ディスカッションの他にクラフト、屋外での運動、レクリエーション、英語のゲーム等をプログラムとして導入していましたが、様々な子どもたちや家族とのかかわりのおかげから、活動は次第に広がり、自主企画のパーティや旅行、地域の職場で働く人々と関わる職場体験、外国の家庭や同世代の子どもと交流するホームステイ、食べ物を作る喜びを知り、分かち合う体験、地域のためにボランティアを行うコミュニティーサービス等、子どもたちのチャレンジは、広がりを見せ始めました。

こうした活動は徐々に町の中に伝わり始め、想いに共感する企業、市民、学生と一緒に活動をし、職場体験の場の提供、農耕用地や山林の提供、まちづくりへの参画等、支援の輪にも広がりが見えてきました。

## そしてNPO法人へ

I CANは、設立以来、企業内教育事業部の形態を取って来ましたが、実際には、事業部の専属社員と親等、市民が協同で運営を、会社が財政を担う形で進めてきました。

そして、活動の広がりを背景に特定非営利活動促進法(NPO法)に則り、2005年に特定非営利活動保人(NPO法人)として組織を再編し、新たなスタートを切りました。

NPO法人設立後も開設当初の活動理念は変わることがありませんが、家族の会の充実、フリースクール間のネットワーク作り、不登校やひきこもりの子どもたちの受け入れ、未来のリーダー育成、国際活動の推進、学校や教育関係者との協議等、支援の拡大と地域への貢献に向けた活動方針を掲げています。



# I CANはこんなところ



## 1.安心できる場所です

I CANはまず子どもたちが安心していただける場所でありたいと考えています。そのために、「自分が認められるところ」を大切にしています。命令、競争、干渉、大人の過度な管理や本人の意にそぐわない期待等によらず、一人一人が、自分らしくあることや、気持ち、考え方、自己決定を尊重します。最初の不安や緊張は時間をかけて安心や信頼に変わらるでしょう。

学校へ行っていない子や家族に対して、地域社会の価値観はまだ否定的です。そのため、本人の家族の自己評価は低く、「自分は駄目な子だ」、「親として駄目だ」と不安がっていることが多いです。また、親子間でも価値観の違いが多く見られます。

あくまでも子ども本人、あるがままを受け入れる環境と理解し合える仲間の中で、自己重要感(セルフ・エスティーム)を育める場がここであり、「自分を出していいんだな」と感じられるようになるでしょう。



## 2.「やりたいこと」を大切にします

I CANでは、子どもの「やりたいこと」を大切にします。やりたくない、やりたいことがないときはその気持ちを尊重します。

やりたいことはどうすれば実現できるでしょう？

「無理だ」と最初から諦めず、できることを一緒に考えてみましょう。やりたいことをやれるようになるための問題解決力や勇気、知恵、行動力、企画力、しいては交渉力をも学ぶことができます。

やりたいことが見つからない子、それでもいいと思います。I CANでいろいろな活動に接している中で見つければいいですね。このように一人でも多くの子が、やりたいことを発見し、自己実現に向かっていきます。

I CANは、その子の成長をサポートする一員でありたいと願っています。





### 3.「自分で決める」を大切にします

自分で決めていいということは自由ということです。週何回通うか、服装や持ち物はどうするか、週末のプログラムには参加するかしないか、自分流の一日のスケジュールを立てる等自分で(自分達で)決めます。自分の自由があるということは、他人にも自由があるということでもあり、それを侵してはならないことも日常の中で学びます。

### 4.子どもたちで創っていきます

子どもの場での主人公は子どもであるという考え方を持っています。そこがどんな場所であってほしいか、何をどうしたいのか、子ども自身が一番良く分かっているのではないのでしょうか。大人が指図をし、それをこなすことで進めていくことが「教育」と考えるのは、伝統的な考え方かもしれませんが、実社会の仕組みがそうであるように、子どもたちが意見を出しあい、決定、実行、改善というように舵取りをしていく参画型の活動環境を作り出すのも教育だと考えます。



### 5.個の尊重

子どもは、一人一人育って来た背景が異なります。個を尊重するのならば、その違いを受け止めあい、その子自身の興味や感性、認識力やペースが大事にされ、自分でも大事にしていく、I CANがそれを認める場でありたいと願います。

このような場で育った子どもは個性が潰されず、自分の生き方に責任を持ち、柔軟で生き活きとした個性的な人間として成長しています。

